

くじら日記

太地町立博物館から



太地町の夏の風物詩「くじらに出会える海水浴場」。毎年夏季に開催する名物イベントが、今年はコロナ禍の影響で中止になりました。この海水浴場が開くと、いよいよ夏が来たぞ、と意気込むのですが、今年は気持ちの切り替えができないまま夏を迎えそうです。

「くじらに出会える海水浴場」は、2008（平成20）年に町の活性化と「鯨の町」の周知および集客を目的に、町内の8200平方メートルの入り江をサメ除けネットで仕切った通称「くじら浜海水浴場」内に網いけすを設置し、そこに、くじらの博物館で飼育する2頭のクジラを運び、展示したのがスタートです。

遊泳客は、網いけすに設置された特設ステージからクジラを観察することができ、給餌の時間には簡単なパフォー

くじらに出会える海水浴場



「くじらに出会える海水浴場」で、いけすから放たれたハナゴンドウ＝昨年、太地町

遊泳客3倍に 今夏は中止

マンヌも見学できるという催しです。翌年からは、1日2回、網いけすからクジラを15分程度解放し、より自然に近い環境で、遊泳客がクジラと同じ空間を共有しながら海水浴を楽しむことができるようになりました。

このたびいまだな海水浴場でのクジラの飼育管理は、いつも通りにはいきません。遊泳客に慣れさせて近くを泳ぐように訓練したり、事故がないよう安全管理をしたり、ゴミや消化できないナマコなどを誤って食べないように配慮したりする必要があります。

特に大変なのが台風接近時の対応で、太平洋に面した海水浴場は大荒れになるため、あらかじめ小型船やクレーン車を使用してクジラを安全な飼育施設に避難させなければなりません。対応が遅れてしまった際には、高波のなか手漕ぎボートと専用担架を駆使し、体重400キログラム近くのオキゴンドウを人海戦術で運び出すなどの事態もありました。その苦労のかがあって、今まで大きな問題もなく、クジラ展示前の約3倍のお客さまにお越しただけになりました。

今夏は、残念ながら海水浴場は開設しませんが、7月2日に、町内森浦湾内に放し飼いのクジラを観察できる、長さ158メートルの海上遊歩道の一般開放が始まりました。その湾の広さは28万平方メートルで、海水浴場の30倍以上。この規模での鯨類の飼育は前例がなく、新たなチャレンジとなりました。魅力たっぷりの「鯨の町」太地で、夏休みを満喫してみたいかがでしょうか。

（太地町立くじらの博物館副館長 稲森大樹）